

## 市町村との意見交換会

日時：平成29年12月21日（木）

午後3時30分～午後5時21分

場所：大阪国際会議場 12階 特別会議場

開会 午後3時30分

事務局 ご出席予定の皆様がおそろいになりましたので、ただいまから意見交換会を開催させていただきたいと存じます。

私は本日進行役を務めます関西広域連合本部事務局長の中塚と申します。よろしくお願いたします。

最初に、ご出席の皆様をご紹介すべきところですが、時間の関係もありますので、お手元の配席図をもってかえさせていただきます。

なお、大阪市長、吉村委員は公務のため少し遅れての到着と伺っております。

本日はプレスオープンで開催いたしますので、ご了承いただきたいと存じます。

それでは、はじめに井戸連合長よりご挨拶を申し上げます。

広域連合長（井戸敏三） 本日は年末の公務のご多用の中、多くの市町村長の皆様にご出席いただきましてありがとうございます。

少なくとも年に2回はこのような会を持たせていただくということで、前回は8月に開催させていただきました。通算しますと、今回で12回目の関西広域連合と関西の市町村長さん方との懇談の機会を持たせていただくことになりました。本日も共通の課題と情報を共有して、相互理解を深めさせていただければと考えております。

関西広域連合が発足して丸7年を経過しました。これまでの活動、防災にしましても、ドクターヘリに象徴するような広域医療につきましても、そして広域産業振興、環境保全など懸命に取り組んできております。

そのような意味で、一定の評価をいただいているわけではありますが、残念ながら国との関係で、関西広域連合が発足した理由の1つが、国の事務の受け皿に

なるということでしたが、丸ごと移管、かなりのところまでいったわけですが、民主党政権が交代して以降は国の事務の地方への移譲の検討は事務ごとに行われるということになってしまいましたので、結果として、一つ一つの事務について、地方が行う方が望ましいという立証責任を地方側に負わされてしまうという結果になり、非常に矮小化してしまっているという実態でございます。そのような意味では、国の事務の移譲という面では余り大きな成果が上がっていないというのが実情です。広域事務の実施についてはそれなりにご評価をいただいておりますが、今申しましたような点で、さらなる活動が期待されているということが言えるのではないかと考えております。

企画調整事務として取り組んでおりますのが、1つが2021年に行うワールドマスターズゲームズ2021関西の開催でございます。既に実行委員会が立ち上がっており、実行委員会の活動を関西広域連合は支援していくことになります。

もう一つは、ワールドマスターズゲームズ2021関西のレガシーとしても位置づけられると思いますが、2025年の万博をぜひ大阪に誘致したい、そのための後押しを関西全体としても取り組ませていただいているものでございます。

もう一つ、年末押し迫った27日になりますが、女性の活躍社会を実現するための関西女性活躍推進フォーラムを設置させていただきます。経済団体や地域団体との連携のもとで、働く女性が日本で最も活躍できる地域、関西を目指していきたいと考えております。

また、我々共通の理念としていたのが「関西は一つ」であります。1つに埋没してはいけませんので、一つ一つの個性や地域特性を生かしながら「関西は一つ」としての力を発揮していく、発展を目指していく、これに取り組んでまいります。そのような意味で、地域の多様性を生かしながら活力ある関西の創造に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくご協力とご指導をお願い申し上げたいと思います。

今回は、最初に関西広域連合の来年度の予算に盛り込んでおります事業などを説明

させていただきます、その後、ワールドマスタースゲームズ2021関西と国際博覧会の大  
阪・関西への誘致、女性活躍社会の実現についてご説明申し上げて、ご意見等をいた  
だきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたしまして冒頭のご挨拶  
にさせていただきます。

各担当委員による説明（資料説明）

1 関西広域連合の取組について

- ・井戸連合長：広域防災、広域観光・文化・スポーツ振興（広域スポーツ）、  
資格試験・免許、広域課題に対応するための企画・調整
- ・山田委員：広域観光・文化・スポーツ振興（広域観光・文化）
- ・伊藤鳥取県関西本部長：広域観光・文化振興（ジオパーク推進）
- ・瀧田副委員：広域産業振興（広域産業）
- ・宮崎和歌山県知事室長：広域産業振興（広域農林水産）、広域職員研修
- ・飯泉委員：広域医療
- ・石河滋賀県琵琶湖環境部次長：広域環境保全

2 関西全体の共通課題等について

- ・井戸連合長：「ワールドマスタースゲームズ2021関西」に向けて  
女性の活躍推進について
- ・瀧田副委員：「2025日本万国博覧会」に係る誘致活動について
- ・吉村委員： 同 上

事務局 それでは、これより意見交換に移りたいと思います。市町村長の皆様、  
ご質問、ご意見がございましたら、どうぞ適時ご発言をお願いしたいと思います。和  
田町長、どうぞ。

忠岡町長（和田吉衛） 大阪府町村長会の副会長の和田でございます。

ただいま、関西全体の共通課題に「ワールドマスタースゲームズ2021関西に向けて」を挙げていただき、ほっとしております。また、知名度を上げるいろいろなプランの提起もしていただき、嬉しく思っている次第でございます。

ところで、この大会期間中は、関西一円で公式競技32競技ということ为先ほどのプリントで知りました。また、公式競技55種目のほか、オープン競技も実施されるということで、力強くいただきました。

そういうことで、国内外からたくさんの競技参加者と、その家族などの同行者の皆さんも関西を訪れることと思っております。競技参加者並びに同行者は、競技のみならず関西の滞在中、宿泊をはじめ外食、ショッピング、観光などを楽しまれると思われれます。したがって、大きな経済効果も期待されるところであります。

私の町では競技は行われませんが、泉州地域というのですが、大阪南部の地域では、堺市でサッカーとフットサル、岸和田市で自転車のBMX、泉南市で水泳のオープンウォーターが行われます。この泉州地域は海外からの参加者の主な玄関口となる関西空港のお膝元であり、昔からの歴史、文化をはじめ、食や自然など豊かな観光資源があります。

私の町も小さな町ですが、ホテルはありませんけれども、中国、日本の水墨画や墨跡収集では世界的に優れた美術館である正木美術館がありまして、外国の方々に喜んでいただけるという思いで期待しているところです。このワールドマスタースゲームズ2021関西を大きな機会と捉え、参加者の方々に、競技開催都市のみならず周辺地域を巡っていただき、滞在していただけるようにお迎えを準備していこうと思っております。

今、私たち泉州の9市4町では、インバウンドの観光推進に力を入れておりますが、来年の地域連携DMOの創設に向け、準備しているところです。しっかりと泉州の市町が協力し合いながら、このワールドマスタースゲームズ2021関西にお越しただける方々に泉州の魅力を発信し、堪能していただけるよう頑張っていきたいと思っております。

りますので、今、ご提起いただいたことに公私ともに頑張りたいと思いますので、取組をよろしくお願ひしたいと思ひます。

時間をいただきましてありがとうございます。

事務局 はい、どうぞ。阪口市長。

高石市長（阪口伸六） 大阪南部の泉州続きで。私、大阪府市長会の会長、また、関西国際空港推進協議会の会長を仰せつかっておりまして、そういう観点から。先ほど山田知事さんから観光インバウンドに關しまして、非常に力強いお話をいただきありがとうございます。

実は、18日、3日前ですか、石井国土交通大臣に關空の關係で挨拶をしてまいりました。国要望に行つてまいりました。大臣も關空のこの頑張りというか伸びについて、非常に思い入れを持っていただいております。

インバウンドは、ちょうど東日本大震災後が全国的に一番低かつたのですが、海外の旅行客は關空が300万人でしたか、それが、今、1,200万人と4倍です。成田、羽田は2倍です。それだけ關空が伸びているということで、非常に喜んでおられました。C I Qや入管の体制強化で非常に迅速に応援いただきましたので、お礼も申し上げてまいりました。

さあ、このインバウンドを捨て置く手はない。まさに好機到来だと思っております。そこで、今日は時間もないので余りいろいろと話してはいかんと思ひながら、私どももしっかりと支えていきますが、1つ皆さん方にぜひ頑張つていただきたいという話を。よそのことを言うわけではないですけれども、中部の昇龍道のことです。これはセントレア中部国際空港を中心に、中部9県が北陸金沢、飛騨高山、もちろん岐阜もありますけれども、何と比叡山延暦寺も、富士山までも、これは中部なのか、東海なのかと思ひますが、何でもありの世界でして、このような観光ルートをがんがんやっております。

さて、翻つてこの関西圏、昭和2年の古い毎日新聞の資料を皆様方にも持ってきた

わけでございますけれども、街道ができましたのが、京都から和歌山、熊野本宮の熊野街道、また、奈良へ行く竹田街道、あるいは、井戸知事のお膝元でございますけれども、中国大返しの秀吉が天下を取った山陽道、また、今度は逆に、この間も大河ドラマをやっていましたけれども、徳川家康が慌てて本能寺の変の時に逃げ帰った伊賀越えの信楽街道、また、鯖街道で北陸から京都までと、ありとあらゆる街道がこの関西圏にはあるわけです。恐縮ですが、歴史的には何の根拠も...と言ったら怒られますけれども、そういうものに負けてはならじというのが私の思いであります。

観光税がいよいよ導入され、1人1,000円で400億円あるといいます。石井大臣から、「阪口さん、皆さんにぜひお伝えを」と聞いたのですが、「この観光に対する予算は、ほとんどDMOに行くからね」とおっしゃっていました。今こそ広域連携DMO、これをまさに関西広域連合で。既に広域観光周遊ルート「美の伝説」でやっていただいております。決して手をこまねいておられるわけでないのはよく理解しておりますが。

1,200万人は、まだまだ伸びるわけですから、ぜひとも今こそこれを、皆さん方のお知恵、お力をいただいて、さらに伸ばしたい。関西はとにかく、今、勝ち馬に乗っているわけですから、勝って勝って勝ちまくる。そのためにありとあらゆるいろいろな潜在的な観光資源を発掘していくことを、私もぜひ頑張っていきたいと思っております。

最後に、竹山市長さんが前におられるから言うわけではないのですが、堺と高石はコンビナートがあります。本日は年末ですから、皆さんぜひお持ち帰りいただきたいと思い、その夜景が写っているカレンダーを持ってまいりました。

こんなのが観光資源になるのかと思うのですが、40人、50人のバスツアーの募集に700人が応募してきます。それも老若男女、女子大生からおじいちゃんとお孫さん、カメラを持って来られます。私自身が驚くぐらいです。たしかに夜に見たら、もう本当に美しいです。昼間は少し寂れていますから、余り見られない方がいいと思っておりますけれども。

要するに、そのような観光資源がたくさんあるわけで、そういうことをぜひ。私ど

もも頑張りますので、関西広域連合で観光の広域連携、DMO化、ぜひよろしく願い申し上げます。

最後に、先ほど吉村市長さん、また濱田副知事さんにおっしゃっていただきました。私も大阪府市長会といたしまして、大阪万博、全力を挙げて応援させていただいております。先ほどちらっと写真を見ましたら、高石市のものですね、どうもありがとうございます。市民に対して署名運動をやっており、小さい町ですけれども、約2,000人近く集めました。6万人の町です。この規模でいくともっともっと集まって、20万人、30万人という署名が集まるのではないかと思います。これをやりますと、結構首長として評判がいいです。吉村さん、本当ですよ。「ああ、そうか万博か」、「そうですねん。皆さんの1票がこの万博を誘致できるかどうかにかかっているんです。よろしく願います。」と。選挙みたいになりましたけれども、そういうことを言いますと市民もどんどん乗ってきて、参加意欲が高まってまいります。

ぜひ近畿の各市町村さん方、あるいは府県の皆さん方も、一度やってみたら面白いと思いますので、大阪府の方や大阪市の方、手弁当で駅弁のようなボードを持って、「いらっしゃい、いらっしゃい」と言ってやってくれると思いますので、ぜひ頑張っていこうではありませんか。ということで私のプレゼンとさせていただきたいと思えます。今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

事務局　　ありがとうございました。

はい、どうぞ。福井町長。

牟岐町長（福井雅彦）　　徳島県牟岐町の福井と申します。このような大きな会で発言させていただきましてありがとうございます。

牟岐町というのをよくご存じでない方もいらっしゃると思いますので、少しだけ自己紹介をさせていただきます。このお配りいただいた毎日新聞の中に、幸い牟岐町というのがございました。本当に嬉しく思います。

牟岐町は徳島県南部の小さな町で、大阪からは徳島県の一番遠いところにあります。

ですけれども、一昔前は牟岐町産の八モと言えば京都府の料亭で、本当に高値で取引がされていたと伺っておりますし、また、これも一昔前ですけれども、牟岐大島と言えば釣りのメッカとして京阪神からもたくさんの方においでいただきました。ありがとうございました。

また、昭和43年の映画で石原慎太郎と三船敏郎の「黒部の太陽」というのがありますが、この原作者が木本正次といい、牟岐町出身です。またこの方が「黒潮の碑文」という小説を書いておられます。この小説は、昨年公開された百田尚樹の「海賊と呼ばれた男」と本当にストーリーがよく似ております。「海賊と呼ばれた男」は油を商品にしているんですけれども、この舞台は牟岐町です。「黒潮の碑文」は魚をネタに、牟岐町から出て日本全国でマグロを獲って、マグロがないところに売りさばいて、戦前はニチロという大きな会社に対抗するぐらいの大きな会社になっていたというストーリーです。ぜひとも一度ご覧いただけたらと思います。

本日は関西広域連合の会議ということでして、我々のやっていることと、今、お話しされていたこととは少しベクトルが違うような気もするのですが、1つ共通点を見つけまして、生物多様性ということでお話をさせていただけたらと思います。言うならば、地方創生と生物多様性、言い方を変えたら、漁業振興と磯焼けということでお話しさせていただきたいと思います。

かつての牟岐町は、山から言えば、戦後の山を切った後に植林しまして、まだ大きくなっていない状況で、落葉樹などもございました。それから、草木もたくさん生えており、ササ類もシダ類も生えておりまして、山に踏み入るのも本当に大変な状況でした。

また、川は、川エビ、それから、植物も川面から生えており、海拔20メートルぐらい、幅1メートルぐらいの水路にもウナギがいました。海は本当に海草がたくさん生えており、潜ろうと思ったら海草が邪魔になるぐらい生えていたのです。また、海の波打ち際にはたくさん海草があり、なかなか沖へ行けないような状況でした。



それが現在は、山は、木が大きくなってきているものですから、木の下は薄暗くなっており、下草はほとんど生えていないような状況ですし、それから、川には川エビもほとんどいません、ウナギはもちろんいません。先ほど言い忘れましたが、かつてはその川の周辺に10種類を超えるようなトンボがいました。ところが、このごろはほとんどトンボの姿も見かけません。

それから、海は、いわゆる磯焼けで、貝類はほとんど大きくならずに、サザエはもういなくなりました。それから、小さなバイという貝が昔は本当にたくさんいたのですけれども、これももう少なくなって、採るのは禁止になっております。

そのような状況で漁師さんが漁をしているわけでございます。かつては1世帯で1日200万円も水揚げがあった状況ですけれども、今は1年間で1世帯150万円も水揚げがあればいいという状況で、地方創生に取り組んでいるような状況でございます。

地方創生は、いわゆる交流人口の増、それから雇用の増、所得の増ということですが、交流人口の増ということでは、出羽島とってこの2月に伝建（重要伝統的建造物群保存地区）に選定された魅力的な島があり、移住者の方にそこに入れ替わり立ち替わり来ていただくのですけれども、仕事がなく、しばらくいたら出て行かれるという方がたくさんおられます。

何とか仕事を作りたいのですけれども、地方の基幹産業は、昔から1次産業で、なかなか仕事が見つからないという状況ですので、このてこ入れ策として何とか磯焼けを解決したいと今、大きな課題として思っております。

磯焼けの原因は、地球温暖化と海水の貧栄養です。海水の貧栄養の原因というのが、先ほど申し上げましたように、山が少し荒れているということと、養分が山から流れてこない、あるいは、これは皆様方の取組に反対するようなことかもしれませんが、生活排水が綺麗になり過ぎて、養分が少ないのではないかということも言われております。

山から流れてくる養分を何とか取り戻すためにいろいろな調べましたら、東北では、

「森は海の恋人」といって、畠山さんという方がカキの養殖をされていたのですが、カキが大きな被害を受け、原因は「山からの水が悪い、プランクトンを含んでいない」ということで、その取組をされたところ、海が甦ったということがあります。

そのようなことですので、生物多様性、海を豊かにするという取組が牟岐町においても大切だということで、関西広域連合さんでもそのような取組をされているということで、何とか皆様方のお力を借りて取り組んでいけたらと思っております。

地方の魅力というのは豊かな自然と生物の多様性です。この魅力がなくなったら、武器がなくなったら戦えないような状況でございますので、どうかよろしくお願ひしたいと思っております。終わります。

事務局 ありがとうございます。

はい、どうぞ。石田市長。

倉吉市長（石田耕太郎） 鳥取県の倉吉市長の石田と申します。

はじめに、お礼を申し上げたいと思います。昨年10月21日、鳥取県中部地震が発生し、大変大きな被害を受けましたけれども、その際には関西広域連合から約500名の人材派遣をいただきました。また、これとは別に、徳島県さんからは70名ほどの人員の派遣もいただきましたし、飯泉知事さんにはわざわざ足を運んでいただいて、特にキッチンカーでおいでいただき、食事の提供もいただきました。隣の阪口市長さんにも、甘いものを携えて激励においでいただきまして大変ありがとうございました。

おかげさまで、約1万5,000を超える家屋被害がありましたけれども、皆さんから派遣をいただいた技術職の職員の応援をいただいて、約1カ月で家屋被害の調査を終えることができました。その後の罹災証明の発行も、おかげさまでスムーズに発行することができ、現在、約9割程度は屋根のブルーシートがとれたのではないかと思っているところです。完全復興に向けて、これからもしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひを申し上げます。これはお礼でございます。

それから、ワールドマスタースゲームズ2021関西についてですが、鳥取県は4競技を担当させていただくことになっております。関西広域全体で非常に多くの競技を受け持って実施されるということですので、できるだけアクセスしやすい状況を作っていないといけないのではないかと考えています。

そういう意味では、先ほど連合長さんからパスのお話がありましたが、交通のネットワークとあわせて、そのような共通パスのようなものを作って、行動しやすい、参加しやすい仕組みを作っていく必要があるかと考えております。また、せっかくおいでいただく国内外からの皆さんを、地域の資源を生かして観光に結びつけていくという意味では、先ほど阪口市長さんがおっしゃったような関西全体のDMOができれば。それはそれとして、各地域に既にDMOができているのだらうと思います。私の方にもできております。

そういうものと関西全体のDMOとをネットワークして、いろいろな着地型の観光商品を取りまとめたような形で、大きな観光ネットワークづくりができればという感じもしますので、ぜひ観光に視点を置いたワールドマスタースゲームズ2021関西の波及効果を考えていただければありがたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

事務局 ありがとうございます。

事前に、佐々木市長さんからご意見をいただいておりますが、いかがでしょうか。

南丹市長（佐々木稔納） 近畿府県市長会から来ております、京都府南丹市長の佐々木でございます。

関連しますけれども、ワールドマスタースゲームズ2021関西の取組についてでございます。私どももデュアスロンを行うということで進めてきております。先ほど連合長さんから取組について、大変力強いお言葉をいただきまして、私どももこれから組織委員会といたしますか、連携をしていくのですが、知名度不足ではないかということ

も若干危惧されており、本日、大変心強い思いをいたしております。

そういった中、競技団体の皆さん方ともお話をする中では、先ほどONE PASS、また、交通系カードの拡充といったこともおっしゃっていただき、大変ありがたく存ずるのですが、自転車競技をするのに、折り畳み自転車ならば列車に乗れるけれども、普通の自転車はなかなか持ち込めない。

特にスポーツ自転車となりますと、どうしても自家用車等で輸送しなければならないということがございます。今回、交通検討会議も開催いただくということですので、こういったものを公共交通機関で運べるよう要請していただけないかということ、競技団体からもお聞きしております。

これがいわゆるスポーツツーリズムにつながると思いますし、今、大変自転車ブームでもございます。こういうことも含めまして、いわゆるサイクリングトレインといえますか、そのようなことも何とか考えられないでしょうかというお話も出ておりますので、何とぞこの点もご検討いただけたらと思う次第です。

何はともあれ、先ほど申しましたように、これから各市町村で競技団体、また、各府県と連携していかなければなりませんので、その中核にございます広域連合さんでしっかりと啓蒙活動もしていただきたいと存ずる次第です。よろしく願いいたします。

それともう一点、今の予算説明の中で広域医療、ドクターヘリを拡大いただくということをお伺いしました。以前の会議でもお願いを申しておりますので、大変力強く、心から感謝を申し上げる次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

事務局 ありがとうございます。

ほかにどなたかいらっしゃいますか。

それでは、これまでワールドマスターズゲームズ2021関西、観光、万博、そして磯焼け問題、今の医療の話と出ましたけれども、一旦、連合委員会委員から、お願いし

ます。はい、どうぞ、連合長。

広域連合長（井戸敏三）　ワールドマスターズゲームズ2021関西について、こんなに発言が続くとは思っておりませんでしたので、大変力強く感じました。これからだという思いです。これからは開催地を中心とする周辺市町村の皆さんのご協力を得ながら、しっかりと準備を進めていかなければならない、そのような決意を新たにしましたところ です。

知名度は一昨年の調査段階では大変低かったです、10%くらい。2019年のラグビーでさえ2割くらいあったのに、その半分くらいしか知られてなかったということですが、まだ4年先ですので、ラグビーは2年先ですから、十分取り戻して追い越せると思っております。

それとあわせて、2019年、20年、21年と3年連続で大きな世界大会が開かれますので、盛り上げはやはり最終の大会、これを言うと万博が盛り上げの最終だと言われそうですが、そのような意味でもしっかりと関連づけながら盛り上げていきたいと思っております。

それから、せっかく来ていただいたのですから、選手ももちろんですが、家族の皆さん等のツーリズムということを十分に念頭に置いて準備をする必要がある。まさしくこのワールドマスターズゲームズが、生涯スポーツを通じ、充実した生活を実現しようという趣旨ですので。

そのような意味で、特に外国の方々、来ていただいた方には関西一円をしっかりと回っていただきたいということで、これはまだ私のアイデアの段階ではありますけれども、開催地に来ていただいた方に開催の前か後に回っていただけるよう、関西全体のコースももちろん必要ですけれども、開催地ごとに、ここまで来ていただいたら、ここここは回っていただいた方がいいですよ、こういうコースがありますよと、開催地ごとのいわばモデルコースを設定してはどうかと考えております。　例えば鳥取でしたら、鳥取まで来ていただいたのだから山陰海岸を回って、それで京都に入って、

大阪に入って、関空から出るというコースを設定するとか、そのような積極的なコース設定で、ぜひ理解を得るようにしていきたいと思っております。

それから、さらに、競技の道具をどのように持ち運びするかという手段も非常に重要な1つ課題です。ドラゴンボートのような大きなボートでも、自分の道具を持ち込みたいという方がいらっしゃるらしいです。そうだとすると、競技会場が関西一円になっておりますので、例えば関空からどのように持って行くかということになります。

人々の交流、交通手段の確保だけではなく、そのような競技道具の運搬の仕組みも十分検討させていただく必要があると考えております。そのような意味でも重要なご指摘をいただけたのではないかと考えております。

また、石田市長さんからは波及効果のお話もいただきました。私ども、この9月に日本スポーツマスターズ選手権大会という、日本国内のシニアの国体をやらせていただいたのですが、約1万人がお見えになりました。大体、配偶者同伴で来られますので、2万人になるわけです。2万人の方々はずぐには帰りません、3日から5日ぐらいいらっしゃいますから、10万人になる。10万人の方々が、1日5万円は難しいかもしれませんが、5万円使われたとしたら、50億円です。

ですから、そういう意味からすると非常に波及効果が大きいと考えております。これを活用しない手はない。いかに関西をしっかりと回っていただき、そのの方々のおもてなしをしながら我々もきちんとした振興に繋げていくか、これが非常に重要ではないかと考えております。

そのような意味で、これからの準備はいろいろ多分野にわたりますけれども、よろしくご指導とご協力をお願い申し上げる次第でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員（山田啓二） 観光についてですが、先ほど阪口市長さんから好機到来だという話がございました。ただ、好機到来と同時に問題もかなり起こってきております。1つには、以前は850万～860万人が最高だったのが、あっという間に今年で2,800万

人まで増え、たくさん来られています、その中で格差の問題が出ているということです。関西で言えば、大阪と京都に集中しており、では、ほかのところはというと、トリクルダウンまではいかないわけです。まだ、なかなかそちらに行っていない、この格差をどうするかという問題。

それから、たくさん入って来られるので、その処理ができず、民泊問題や白タク問題など、外国人旅行者の中に無法状態みたいな状況が生まれていて、安心・安全の点から大変大きな問題になっています。そして、観光客が増えれば増えるほど、観光客と住民とのトラブルが増えてくるといった問題がありますので、まずこういう問題を我々関西においてしっかりとなくしていかなければいけない。格差の問題に対しては、我々は「美の伝説」に取り組んでいます。関西のいいことは、世界遺産や日本遺産がたくさんある。そうした面でハード、ソフトともにコンテンツが非常に豊富ですので、これらをいかに多くの方に見ていただくか。それによって格差をなくしていく方向をとらなければいけないと思っております。

それから、違法状態につきましては、現在、各都道府県、政令市を中心に民泊条例を作り始めています。京都の場合で言えば、京都市は非常に厳しい制限条例を作り、京都府は、京都市近郊は制約をするけれども、それ以外のところは推奨しようという形で、条例を作ろうとしています。

このようにバランスをうまくとった形で、単に民泊悪論ではなく、うまく民泊を利用して、これから増えてくるであろう観光客、特にワールドマスタースゲームズ2021関西の場合には、多くの方が一度に来られてしまう。しかも関西全体を受け皿にしましたから、宿泊については各市町村にもかなり協力していただく形をとる、それが次の段階につながると思います。

トラブルの問題は、多言語化を図るとか、テレフォンセンターやコールセンターのようなものを整備するとか、しっかりと環境基盤を整えていくことによって対応していきたいと思っております。

そして、考えなければいけないのは、2,800万人から4,000万人時代になりますと、来る人はもの凄く多様だということです。たいへんお金持ちもいれば、かなり庶民の方もいらっしゃる。そして、来る方法も、今までのように、成田に降りて、東京ディズニーランドを見て、富士山を見て、京都へ行って、大阪へ行って、U S Jで関空から出ていくという黄金ルートではなく、様々なルートでやって来ます。

例えば関西ではクルーズ、そして飛行機ではL C Cが増えています。情報網も、今までの観光案内ガイドブックからS N Sやインスタになっています。こうした多様性に対して、どのような形で対応していくのかと考えますと、D M Oを中心とし、新しい多様なツールにしっかりと取り組んだ形にしなければいけない。

その点からいきますと、関西は関西観光本部が日本版D M Oになりました。多分、こういう地域全体のD M Oを作ったのは関西が最初ではないかと思imasので、この優位性を生かして、多様な観光客に対して適切な情報を与えていくことによって、好機を逃がさないようにしていきたいと思imas。このほか、ワールドマスタースゲームズ2021関西のスポーツ観光や医療観光など幅広い観光を通じて、単に物見遊山に終わらない体験型の観光へと転換していきたいと思imas。

事務局 はい、どうぞ。連合長。

広域連合長（井戸敏三） 牟岐町の福井町長さんから磯焼けのお話がありました。これは、今、ご指摘いただいたように水の温度が変わったということと、水質が綺麗になり過ぎて栄養分が足りなくなっているのと両面からであろうと思imas。

栄養分の方から言いますと、お話があったように、「山は海の恋人」ですので、山の管理をきっちりしていくことが非常に重要だろろうと思imas。森林環境税も作られるようすけれども、森林環境税を活用することもそうですが、私どもは、超過課税で災害に強い森づくりということを、山の管理の徹底を図っております。既に37府県がそのような取組をされておられますので、それらの事業ともタイアップしながら適切な山の管理を進めていきます。



山の管理を進めていくためには、山の利用が進まないといけないので、国産木材の利用・活用をさらに進めることと、私の今後の大きな期待はバイオマス発電の原材料として、木材チップをもっともっと使って発電をすること。バイオマス発電をすればCO<sub>2</sub>ニュートラルですから、環境保全にもつながるという意味で一石二鳥、地域の振興を起こすという意味で三鳥になるかもしれません。このような対応を総合的にやっていく必要があると思っています。

また、我々が瀬戸内海で努力しようとしているのが、下水処理場の管理運転です。兵庫県の場合、播磨灘の流域別下水道整備総合計画が改定時期になっておりまして、その総合計画の中に、下水処理場の管理運転の項目を立てて、位置づけをきちんとしたいと考えています。

特に栄養分が不足するのは冬場ですので、何も環境基準を達成しないという意味ではなく、環境基準は守りながら、その中で若干、環境基準に近いところで放流する、通常の場合は限界値に近いようなところで放流する、このような管理運転の原則を打ち立てて、既の実施させていただいていますが、この実施をさらに広めていきたいと考えます。そのような意味で、地球温暖化対策をしっかりと進めていくことが重要だと思っています。

あわせて、お話がありましたように、藻場などを造成していかないといけない。あるいは、海底耕耘をしていくというように、もし、人が自然を破壊して生物が住めなくなっている環境があるのだとすれば、もう一度それを取り戻すような環境整備をしていく必要がある。これも非常に重要な事柄ではないかと思っていますので、ぜひ府県市町村、力を合わせて自然回復という意味も込めて、事業実施をさせていただいたらいかがかと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

牟岐町長（福井雅彦）      ありがとうございます。

委員（竹山修身）      泉州の仲間である忠岡町長の和田さん、そして高石町長の阪口さんから、ワールドマスタースゲームズ2021関西、さらには周遊についてお話し

ただきましたので、我々の取組は、まだ緒についたところであるということをお伝えしたいと思います。

関空から世界に飛び立っていただいています。関空から入られたインバウンドの皆さん方は、大阪や京都に行かれて泉州を素通りされています。これを何とか泉州で周遊していただける取組をしたいと、関西の広域連携DMOである関西観光本部と連携しながら泉州でDMOを作り、来年4月にスタートします。

ワールドマスターズゲームズ2021関西において、堺市でフットサルとサッカーを開催したら、6,000人の方が来られ、そのうち外国の方が2,400人来られると聞いています。そして、ペアで来られましたら、5,000人あるいは1万人近い方々が、スポーツを楽しむとともに、泉州を周遊していただけると思います。そういった方々に対して「美の伝説」の一環として泉州をしっかりと回っていただけるルートづくりをしていきたい。

そして、泊まる場所についても、堺だけでは泊まる場所が足りませんので、泉州全体で泊まっていたら、自然を満喫していただけるようにしていきたいと思います。

もう一つ大事なことは、そのようなDMOを作ったらどのような形で満足をしていただけるかということです。泉州は自然も、海や山の幸もあります。仁徳天皇陵古墳や岸和田城もあり、そしてお祭りも盛んなところです。こういったところをセットでしっかりと売り出していないといけないと思います。それがまさにルートづくり、DMOの役割ではないかと思っています。

それともう一つ、今、大事なのが環境と健康です。牟岐町の町長さんもおっしゃったように、環境問題、そして人間の健康問題にどうコミットしていくかということで、私は現在ブームの自転車を泉州からしっかりと売り込んでいきたいと思っています。

堺にはシマノという自転車メーカーがあります。そして、シマノがツアー・オブ・ジャパン堺ステージというのを堺市と一緒にやっています。世界の選手が堺の仁徳天

皇陵を走っています。そして、こういう自転車のプロだけではなくアマチュアも走れるように、和歌山から泉州を通過、ピワイチ（琵琶湖一周）やアワイチ（淡路島一周）に行ける、いろいろなルートを関空をキーステーションとしながらサイクリングができる、このようなことをやっていきたいと考えているところです。

ぜひともこの自転車を使ったルートを関西一円でしっかりと楽しんでもらえるように考えていきたいと思っておりますので、広域連携DMOと泉州のDMOとが連携して、皆さん方のDMOとも連携してやっていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

以上です。

委員（飯泉嘉門）　　まずは、石田市長さん、昨年10月、本当にお疲れさまでした。なかなか発生確率が低いと言われる活断層型の直下型地震が鳥取中部を襲い、その中心がまさに倉吉市と。

今もご紹介いただきましたように、徳島県と鳥取県、平成16年に同時被災を受けないところ同士で、しかも防災意識が高いもの同士で、1対1で遠隔地協定を結ぼうと。当時は片山知事さん、後に平井知事さんということで、数次にわたりこれを改定してまいりました。

その後、東日本大震災が発災して、関西広域連合が応援をするところと被災をしたところをきっちり決めたカウンターパート方式、今では国の方式となったところがあります。この遠隔地協定とカウンターパート制度、しかも常時からカウンターパートを作るということで、中四国9県におきましてカウンターパートを常設化しました。

もちろん徳島県は鳥取県となります。しかも県同士だけではなく、いざ発災となった場合には顔の見える関係、入ってから「私、どこに行ったらいいのでしょうか。」では遅いんです。これは東日本大震災でもはっきりしていたところです。ということで、医療についても医療コーディネーター制度を発案することになりました。

倉吉市の皆さん方は本県の吉野川市がカウンターパートとなり、吉野川市が直ちに

駆けつける。さらに、我々は、ちょうど4月の熊本地震を受け、平井知事さんと協定を巻き直して、プッシュ型でいこうと。震度6弱以上が起きた場合には、応援要請がなくてもプッシュ型、直ちに駆けつけるということで、発災から17分ですぐ消防防災ヘリ3名、そしてリエゾン（災害対策現地情報連絡員）はセスナをチャーターして3名が徳島阿波おどり空港から。もう夕方には鳥取県での災害対策本部に6名が加わって活動をしました。

また、今ほどお話がありました、罹災証明に必要な応急危険度判定、あるいは家屋調査につきましても、翌日から直ちに派遣をさせていただきました。その後、関西広域連合から大々的に送られることとなります。熊本地震のときには罹災証明を発行するのに2カ月以上かかったところが、鳥取県中部地震では1次審査を1カ月で全て終わることができたわけです。また、私も現地に直ちに駆けつけさせていただき、特に倉吉市は給食センターがやられてしまって、周辺の町にも給食を提供できないということがありましたので、「新鮮なっ！とくしま」号に11トン、こちらで備蓄していた食糧、特にカレーなどをあるだけ詰め、これを給食センターに提供させていただくとともに、広域公園のところで、災害ボランティアの皆さん方も含めまして、避難民の皆さん方に対して、鳴門金時入りのぜんざいを直接配らせていただいたところでもあります。

こうした形で、当時、石田市長さんから、「我々が南海トラフ地震で吉野川市、徳島県に応援に行くことばかり思っていた、まさか徳島県に応援に来てもらうとは思わなかった。」というお話をいただいたところであり、ぜひ1日も早い完全復興をされ、そしていざ発災となった場合、今度は我々が期待をしております、お待ちしております。ご苦労さまでした。

そして、佐々木市長さんからは、ご本人のご体験から、いかにドクターヘリが効果的かと、いつもPRと応援をいただいております、本当にありがとうございます。

今回、鳥取県のドクターヘリが今年度末から導入となり、今までは日本海側を守備

している3府県ヘリ、こちらはかなり負担がありましたが、鳥取県分が軽くなってきますし、逆に鳥取県のドクターヘリが3府県ヘリがカバーをしている例えば兵庫県の北部、京都府の北部、こうしたところも場合によっては対応が可能になってくる、いわゆる二重、三重でのセーフティーネットが可能になってくることとなります。

また、30分以内で駆けつける、これが救命救急効果が高いと言われてるところですので、こうした点についても二重、三重のセーフティーネットということで、関西広域連合、今回で7機体制となりますので、平時においてもしっかりとこれらの運航を行っていければと考えています。

また、平時の話ですが、いざ発災となった場合の守備力、こちらはかなり向上することが期待をされています。熊本地震のときに、この時はまだ6機体制だったのですが、西側を守備している3府県ヘリ、兵庫県のドクターヘリ、徳島県のドクターヘリが蒲島知事さんからのご要請を受けて、直ちに熊本へ急行しました。

となってくると、関西全域を守るドクターヘリは3機になってしまうのです。この場合にもそれぞれ隣接県との相互乗り入れ、あるいは消防防災ヘリ、こうしたもののドクターヘリ的機能という形で何とかこの守備を行ったところではあります。

これからは7機体制となりますと、仮に東側であれば東の3機が、西側であれば西の3機が急行するわけですが、その後、残った関西全域を4機プラスそれ以外の消防防災ヘリなどで、あるいは、隣接の協定を結んだところのドクターヘリで対応する、この点についても守備力がアップしていくということが考えられますので、これからもより効果的な平時における、また災害時における対応をしっかりと構築してまいりたいと考えております。またご利用というわけにはいかないのですが、いつでもお待ちをしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 万博の件はよろしいですか。

委員（吉村洋文） 万博の件では、いろいろとありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

先ほど、ワールドマスタースゲームズ2021関西の認知度の話が出ましたが、来年、大阪・関西での万博誘致が決まれば、いろいろなコラボができるのではないかと考えています。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、生命や健康ということに関わっていきます。それをいかに面白く楽しく、最新の技術をもって落とし込むか、ということだと思っています。

また、大事なことは、万博は6カ月間だけではなく、その前から、決まってからの期間ずっと、万博に関連して様々な価値を生み出し、最後はレガシーを遺して関西全体の経済成長にも資するというのが最終的な目標です。この間、ケルケンツェスBIE事務次長さんがいらっしゃった時も、ぜひそういった取組をしてくれと言われました。

ですので、来年決まれば、このワールドマスタースゲームズ2021関西についても、例えば、高齢で健康でスポーツ意識の高い方もたくさん参加されますから、そこで企業がビッグデータを取ったり、あるいは健康関連産業にもビジネスチャンスもあると思いますから、この冠に万博をつけ加えてやれば、関西の健康やスポーツといったものの認知度も一気に高まりますし、ワールドマスタースゲームズ2021関西そのものの認知度も高まるのではないかと思います。

「いのち輝く未来社会のデザイン」という抽象的なテーマを、いかに具体的に落とし込むかというのが一番難しくて大事なところだと思っています。ワールドマスタースゲームズ2021関西も関西でやりますので、関西での万博開催が決まれば、何かタッグを組んでやれることはないかと思っていますので、その折にはぜひお願いします。

また、自治体職員の登録で思い出したことがあります。万博の会員登録の件ですが、大阪市の職員にもお願いしておりますが、いろいろ調べましたら、家に帰ってから登録するのはなかなかやりにくいということで、役所のパソコンを使ってもいいことにすればよいというのがわかりました。役所のパソコンを使って、ネットに繋いで登録するのは簡単にできます。

メールで様々な万博の情報が流れてきますので、私から大阪市の職員に「登録して

ね」という話をしました。そうすると職員もやりやすくなりますので。いろいろな形で、関西全体で万博を盛り上げ、その波及効果が及ぶようにしていきたいと思いますので、ぜひまたよろしくお願ひしたいと思います。

事務局　それでは、また市町村長の皆さんからご意見をいただきたいと思うのですが。これまでに関連することでも結構ですし、新たなことでも結構ですので、どなたからでもいかがでしょうか。重ねてのご発言でも結構です。よろしいですか。

広域連合側から、どなたかありますか。よろしいですか。

それでは、予定時間より少し早いですが、このあたりで意見交換会を終わらせていただきたいと思います。

それでは、本日の意見交換会の総括を兼ねて、井戸連合長より閉会のご挨拶を申し上げます。

広域連合長（井戸敏三）　本日は、かなりテーマが絞られた議論が展開されたと思います。ワールドマスタースゲームズ2021関西に関連する課題についてのご指摘、また、それを活用してどう地域の振興に生かしていくか、ツーリズムに生かしていくかというようなご意見を頂戴しました。

あわせて、これをワールドマスタースゲームズ2021関西とその4年後に開かれる万博との意義づけ、あわせて連携というような点にも話が及びました。また、環境保全、ドクターヘリ、健康などについての課題にもお触れいただきました。時宜を得た大変いい意見交換がなされたのではないかと思います。

本日、ご指摘いただいたそれぞれの課題は、我々が広域連合としてしっかりと取り組んでいかななくてはならない課題でもありますし、観光で言いますと、関西観光本部で、具体的には各市町村や地域の観光本部、DMOと一体となって、協力しながら取り組んでいかななくてはならないという課題のご指摘でもありますので、しっかりと協力しながら進めさせていただければと思っております。

関西広域連合の7つの事務の推進に合わせ、さらに関西広域連合が取り組むべき課

題は何なのか。それについては今、広域行政のあり方検討会を開いており、この検討会等で広域連合の将来方向を見出せるような方向づけができればと期待しております。

また、防災につきましては、防災庁の設置という、いわば事前防災を現実化する組織が必要ではないかということをお私たち、非常に強く主張していますが、国の考え方は相変わらず事後防災の効率化という点に集中しているのではないかという感じもします。この辺は市町村の皆さんとも協力しながら、国の理解を十分得る、そのためにも、国民的な運動として展開をさせていただければありがたい、このようにも思っております。

ともあれ、関西広域連合が1人で立っているわけではありません。構成府県市と、そしてその関連の中で市町村に支えられていますので、今後とものご理解と関西広域連合に対するご注文もいただきましたらありがたいと思っております。本日は本当に有意義な意見交換ができたことに感謝申し上げます、私からの最後の締めのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局　それでは、以上をもちまして意見交換会を終了させていただきます。本日はお忙しい中ご出席賜りありがとうございました。

閉会　午後5時21分